

平成 21 年 11 月 4 日

各 位

会社名 青山商事株式会社  
代表者名 代表取締役社長 青山 理  
(コード番号 8219 東証・大証第一部)  
問合せ先 専務取締役  
兼専務執行役員 宮武真人  
企画管理本部長  
(TEL 084-920-0050)

### デリバティブ評価損計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

平成 21 年 5 月 8 日に公表いたしました業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

#### 1. 個別業績予想数値の修正

平成 22 年 3 月期 第 2 四半期累計期間 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり四半期純利益
前回発表予想 (A) (平成 21 年 5 月 8 日)	70,900	600	1,800	200	3 円 15 銭
今回修正予想 (B)	68,727	1,730	△1,600	△1,846	△29 円 04 銭
増減額 (B-A)	△2,172	1,130	△3,400	△2,046	—
増減率 (%)	△3.1	188.4	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績	72,309	3,450	6,184	2,205	34 円 69 銭

#### 2. 連結業績予想数値の修正

平成 22 年 3 月期 第 2 四半期連結累計期間 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり四半期純利益
前回発表予想 (A) (平成 21 年 5 月 8 日)	87,900	1,400	2,100	100	1 円 57 銭
今回修正予想 (B)	85,680	2,548	△1,192	△1,991	△31 円 32 銭
増減額 (B-A)	△2,219	1,148	△3,292	△2,091	—
増減率 (%)	△2.5	82.1	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績	91,707	5,181	7,632	2,752	43 円 29 銭

### 3. 修正の理由

個別、連結とも営業利益は前回予想を上回る見込みとなったものの、平成 21 年 9 月末の為替レートが平成 21 年 3 月末に比べ大幅な円高となったことなどにより、個別の営業外費用に「包括的長期為替予約契約（クーポンスワップ契約）」等に係るデリバティブ評価損 35 億 86 百万円（前回予想はデリバティブ評価益 8 億 40 百万円）を計上する見込みであることから、個別、連結とも経常利益、四半期純利益が前回予想を大幅に下回る見込みであります。

なお、本「包括的長期為替予約契約（クーポンスワップ契約）」に係る「デリバティブ評価損益」につきましては、皆様に十分なご理解を頂きたく、本文最後に補足説明させていただいております。

#### 《個別業績予想》

##### （1）売上高

一都三県を中心に積極的な出店、移転建替などを実施いたしましたが、消費環境の悪化などにより、既存店売上高は前期比 91.1% と、前回予想（既存店売上高前期比 94.0%）を下回ったことなどから、売上高は前回予想を下回る見込みであります。

##### （2）営業利益

一方、売上総利益率が前回予想を上回り、また効率的な経費の使用により、販売費及び一般管理費が前回予想を下回ったことから、営業利益は 17 億 30 百万円と前回予想を上回る見込みであります。

##### （3）経常利益、四半期純利益

前記のとおり、営業外費用として「包括的長期為替予約契約（クーポンスワップ契約）」等に係るデリバティブ評価損 35 億 86 百万円を計上する見込み（前回予想はデリバティブ評価益 8 億 40 百万円）であることから、経常損失 16 億円、四半期純損失 18 億 46 百万円と前回予想を大幅に下回る見込みであります。

#### 《連結業績予想》

##### （1）売上高

個別が前回予想を下回る見込みであることから、連結におきましても前回予想を下回る見込みであります。

##### （2）営業利益

個別が前回予想を上回る見込みであることから、連結におきましても前回予想を上回る見込みであります。

##### （3）経常利益、四半期純利益

個別が前回予想を下回る見込みであることから、連結におきましても前回予想を下回る見込みであります。

### 4. 平成 22 年 3 月期の業績予想について

平成 22 年 3 月期の第 2 四半期決算発表時（平成 21 年 11 月 10 日予定）に発表いたします。

## (補足)「包括的長期為替予約契約（クーポンスワップ契約）」に係る「デリバティブ評価損益」について

### (1) はじめに

前記のとおり、平成 22 年 3 月期第 2 四半期におきましてデリバティブ評価損により、経常損失を計上する見込みであります。当社といたしましてはこの評価損は実態収益に影響が無いものと判断しております。

### (2) 契約の目的並びに内容

当社の仕入については、その大半が海外からの仕入れとなっているため、常に為替変動リスクに晒されており、そのリスクをヘッジする目的で平成 14 年および平成 19 年に、6 つの金融機関との間で、期間 10 年から 12 年の包括的長期為替予約契約（クーポンスワップ契約）を締結し、現在実行中であります。なお、平成 21 年 9 月末時点において、残りの契約期間は、長いもので 8 年 6 ヶ月、短いもので 2 年 6 ヶ月となっております。

また、平均契約為替レートは 102 円程度であり、予約金額は、年間平均約 1 億ドルと、当社の海外からの年間仕入総額の 2 割程度であります。

### (3) 包括的長期為替予約契約に係る会計処理

会計処理につきましては、平成 14 年の契約当初は「ヘッジ会計」を適用し、「デリバティブ評価損益」を損益計算書に計上しておりませんでしたが、包括的長期為替予約契約（クーポンスワップ契約）に関する会計基準の明確化に対応し、平成 17 年 3 月期より「時価会計」を適用し、「デリバティブ評価損益」を損益計算書に計上することになりました。

「時価会計」では、本契約の時価を貸借対照表の資産または負債に「為替予約」として計上し、当期末と前期末の本契約の時価の差額を「デリバティブ評価損益」として損益計算書に計上することになります。

本契約の時価とは、包括的長期為替予約契約を各期末のドル円為替相場と日米金利差で評価したもので、いわば評価時点での手仕舞いコストであります。

### (4) 現状の時価および評価損

本契約の平成 21 年 3 月末の時価はマイナス 51 億 57 百万円でしたが、為替相場が円高に振れたことが主要因で平成 21 年 9 月末の時価はマイナス 87 億 57 百万円となり、そのため平成 22 年 3 月期第 2 四半期の本契約に係るデリバティブ評価損を 36 億円計上することとなります。なお個別の営業外費用として計上予定のデリバティブ評価損 35 億 86 百万円には、本契約に係るデリバティブ評価損以外に金利スワップ契約に係る評価益が含まれております。

### (5) 終わりに

①当社としては、この包括的長期為替予約契約を期日前に解約することは考えておらず、従いまして本契約に係る時価評価（手仕舞いコスト）及びその結果計算される「デリバティブ評価損益」は当社の実態損益に影響を与えるものではないと判断しております。

②また、当社は配当性向 30% を目処として一部業績連動配当を実施しておりますが、上記の考え方に基づき、配当金計算の基礎となる利益から「デリバティブ評価損益」を除外しているわけであります。

③なお、上記のように当社の取得するドルのレートは概ね平均 102 円であるため、期中のドルへの交換分につきましては為替差損（平成 22 年 3 月期第 2 四半期で約 8 億円程度）が生じており、これについては、上記評価損益とは別に営業外費用に計上することとなります。

以上